

令和8年度 法科大学院入学者選抜試験問題

民 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は90分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペンまたはボールペン(鉛筆は不可)を使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
 - (2) 解答用紙は、3枚あります。すべての解答用紙に受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
 - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

【民 法】

解答はすべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。

第1問

以下の各文章の空欄を適切な語で埋めなさい。なお、文末では入るべき語句の字数を示している。
(各4点×10問)

- (1) 制限行為能力者が行為能力者であることを信じさせるため (①) を用いたときは、その行為を取り消すことができない。(漢字2文字)
- (2) 判例は、民法94条2項の規定のみを類推適用する場合、第三者の主観的保護要件として (②) を必要としない。(漢字3文字)
- (3) 代理人は相手方に対して顕名をしなければならないのが原則である。顕名がなくても相手方が、 (③) が (④) のためにすることを知り又は知り得たときは (④) との間で効力が生じる。(③は漢字3文字、④は漢字2文字)
- (4) 民法第177条にいう第三者とは、「当事者及びその包括承継人以外の者であつて (⑤) の欠缺を主張するについて正当な利益を有する者」をいう。(漢字2文字)
- (5) 抵当権は、不動産について債務者又は第三者が (⑥) を移転しないで債務の担保に供する権利である。(漢字2文字)
- (6) 債務者が、その有する財産を相当の価格で売買し、その価格を債務者が取得しているときは、原則として (⑦) とならない。(漢字4文字)
- (7) 消費貸借契約は、原則として、当事者の一方が種類、品質及び数量の同じ物を返還すること約して相手方から金銭その他の物を受け取ることによって、その効力を生じる (⑧) 契約である。(漢字2文字)
- (8) 不法な原因のために給付をした者は、その給付したものの (⑨) を請求することができない。(漢字2文字)
- (9) 嫡出である子は、(⑩) の氏を称する。(漢字2文字)

第2問 (各20点×2問)

- (1) 有責配偶者からの離婚請求が認められるかについて、判例の立場及びその理由を10行以内で説明しなさい。
- (2) 不動産賃貸借契約では、賃貸人と賃借人との間の信頼関係がどのような場面でどのような役割を果たすかについて、判例で問題となった事例を挙げて10行以内で説明しなさい。

第3問

以下の事実を前提して、各問いに答えよ。

[事実]

- 1 Xは、2020年4月、Yの父親であるAとの間でY所有の本件建物を買受ける契約を結び、X名義に移転登記をした。これはAがなんらの権限なく、Yに無断でYの代理人として行ったものである。
- 2 Aは、2025年4月に死亡し、唯一の相続人であるYがAの地位を相続した。
- 3 YはXに対して、上記Aの無権代理行為を理由に本件建物の所有権移転登記抹消請求をしようと考えている。

[設問1]

YのXに対する請求は認められるか。仮に、前記3の請求が認められた場合、XはYに対して如何なる請求をすることができるか。(20点)

[事実] 上記2、3の事実を代えて以下の事実があったものとする [1→4という推移の事実]

- 4 Yが死亡し、Yの相続人がAとBであった。

[設問2]

この場合、XとA、Bとの関係はどのようになるか。場合分けをして検討せよ。(20点)

以 上